



一般社団法人 日本専門医機構

臨床研究医コース

日本の医学・医療を支える Physician-Scientist という選択



Contents

理事長、委員長からのメッセージ / 臨床研究医コースの特徴

P2.

臨床研究医コースについて

P3.

インタビュー / 専攻医に聞く、やりがいと将来の展望について

P4.

臨床研究医コース専攻医へのアンケート

P6.

日本専門医機構臨床研究医優秀賞実施案内 / 日本専門医機構HPのご紹介

P7.

詳しくはこちら

<https://jmsb.or.jp/>



一般社団法人 日本専門医機構

〒100-0011 東京都千代田区千代田二丁目2番2号 富国生命ビル23

研究は早く始めたい、でも専門医も

一般社団法人 日本専門医機構 理事長 渡辺 毅



日本の医学研究力の世界における地位低下は、あらゆる指標から明らかです。その原因の一つとして新専門医制度を挙げる方もいますが、日本の研究力低下は制度が開始された2018年より遥か前から始まっており、いわゆる失われた30年の期間の日本の国力の低下と一致しているように思われます。むしろ研究力低下と国力低下は密接な相互要因と考えられると思います。失われた年月の挽回のためには、今こそ研究費の確保と同時に出来るだけ若い人財が大学院などで研究する機会を確保すべきだと思います。医師の場合も、その特性を活かした医学研究への貢献と医学教育者育成のため、例外ではありません。

一方、新専門医制度は、信頼できる標準的な専門医療を提供できる医師に養成し、国民への医療供給体制の総量と質の向上を目的としており、通常は臨床研修修了後すぐに研修開始されます。

新専門医制度の「臨床研究医コース」は、「研究は早く始めたい、でも専門医も」という臨床研修修了者に、出来るだけ早い時期に大学院や研究機関での研究を始めて戴き、同時に専門医も取得して戴く制度として2021年に発足しました。しかし、発足5年を経て、定員(40名)を満たさない状況が続いています。当機構としても、コース修了要件の改訂や研究奨励賞の設定などの応募者増加のための試みはしておりますが、「臨床研究医コース」の意義や内容を医学生、臨床研修医に周知して戴くことが全ての試みの前提と考え、このリーフレットを作成することになりました。

委員長からのメッセージ

我が国に於ける研究力の発展と向上を目指す — 研究医という選択 —

研究医養成に関するワーキンググループ 委員長 金井 隆典



臨床研究医コースは、日本の研究力の低迷がさげばれている状況から、国内における研究医の養成を目的に2021年度から制度設定されました。我が国における臨床医学の研究力の低下については、世界人口当たりの推移でみた論文数においても2000年～2012年にかけて、日本からの発信量にほぼ変化がないのに対して、米国や中国については、その推移が急速にあがっております。この結果から、我が国の臨床医学の研究力の低下を認めざるをえないながらも、今後、臨床医学における論文を多く提示していかなければならない使命から、専門医制度が臨床医学に対して、その疎外となってはならないという考えをベースに、専門研修の期間内で臨床研究医を担う人材をどのように輩出していくか考慮いたしました。また、論文数の低下においては、基礎研究を志望するコースが設けられている初期臨床研修の開始から、その傾向が始まっているのではないかとこの危惧ももたれておりますが、そのような背景も参考にしながら、未来において基礎研究ならびに臨床研究に携わる人材を育成することをこのコースの目的の一つとしております。

臨床研究医コースは、臨床と研究を両立できるカリキュラムが組まれており、将来の日本の医療を担う人材育成に貢献する重要なプログラムです。我々はこの使命を深く自覚し、一人ひとりの専攻医をサポートし、彼らが将来の臨床医学研究を担う人材として、大学またはナショナルセンター等で中心的な役割を担うことを大きな目標とし、我が国の研究力が向上することを目指してまいります。

臨床研究医 コースの特徴

特徴 1 専門医資格と学位が最短5年間で同時に取得可能

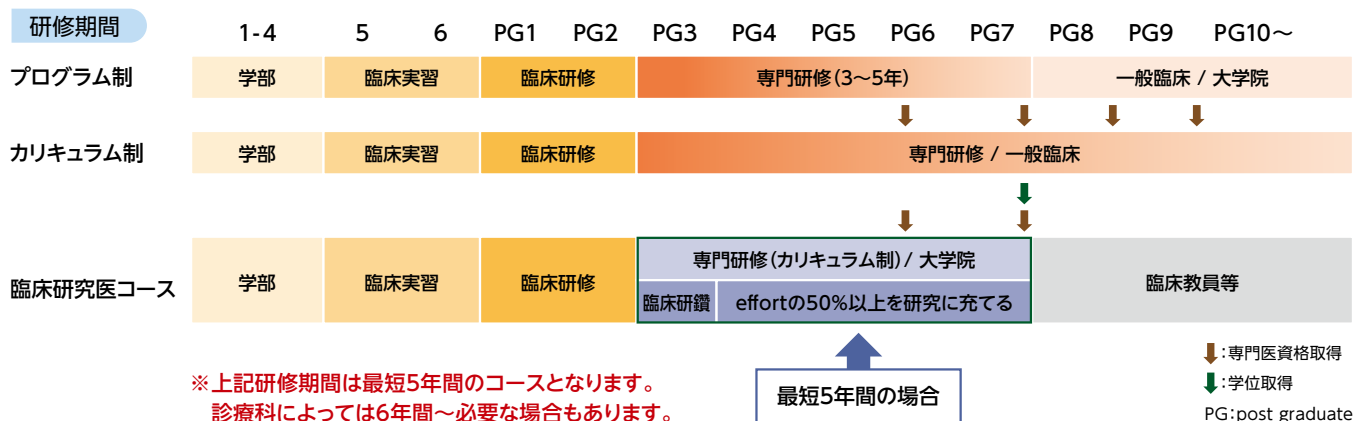
特徴 2 研究フェーズにおいても身分が保障され研修可能

特徴 3 通常募集より前に臨床研究医コース専攻医を募集開始

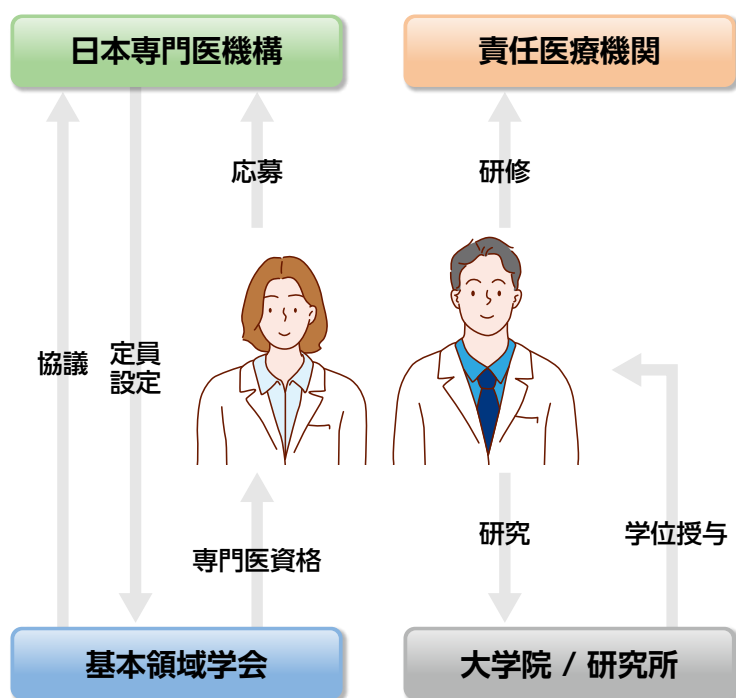
臨床研究医コースについて

1 臨床研究医コース研修期間(最短5年間)

臨床研究医コースは、日本専門医機構がこれまでの専門研修制度に新たに設置した、「臨床研究医」を養成することが目的の研修プログラムです。2024年度からはコースの期間が従来の7年から最短5年に短縮され、修了要件も緩和されました。



2 専攻医募集・採用から研修修了までの流れ



- 1 基本領域学会は、コース内容の検討と責任医療機関の選定後、機構と学会が協議を行い、機構がHPでコース内容を案内
- 2 機構のHPから臨床研究医コースを希望する専攻医を募集
- 3 応募者数に応じて機構から各基本領域に定員を配分後、責任医療機関で合格者を決定し、機構から専攻医に対して合否を連絡
- 4 合格した専攻医は、コースを設置した責任医療機関で研修を開始
1年間の臨床研鑽後、大学院へ入学、コース内容に応じて研究を開始
- 5 責任医療機関は年1回、年次報告を機構に提出し、学会と共有
- 6 基本領域学会は、定めたカリキュラムを達成した場合に専門医資格を授与
- 7 大学院に進学し、学位授与
- 8 臨床研究医コース修了

臨床研究医コース整備指針(2023年度改訂)

- 1 研修期間は最短5年間のコース(診療科によっては6年間以上もあり)
- 2 プログラムの後半4年間は、エフォートの50%以上を研究に従事
- 3 研究は大学院などで行い、Science Citation Index (SCI) 掲載論文2本以上を執筆
ただし、1本は、英文による症例報告か、和文による臨床研究に関する論文で代用可能
- 4 専門研修はカリキュラム制で行い、責任医療機関(責任者)で管理
- 5 コース募集は通常募集に先行し、不採用でも通常の専門研修プログラムに応募可能



臨床と研究の両方への関心が生み出すシナジー効果

黒木 興心 先生

所属先

国立成育医療研究センター
小児科専門研修プログラム
(2022年度研修開始)

研究施設: 2024年10月1日～2025年3月31日/成育医療研究センター 浜松医科大学

2025年 2月1日～2025年3月31日/国立感染症研究所

現在の研究: 小児肝移植において、移植前抗CD20抗体の使用が、移植後EBV感染動態に与える影響の後方視的観察研究



臨床研究医コースを選んだ理由

小児科医として臨床に深く携わりたいと思う一方、学生時代から研究にも非常に興味を持っていたところ、臨床研究医コースを知りました。このコースでは研究で深めている内容を臨床にフィードバックでき、かつ臨床で経験したことを研究に役立てられるというように、臨床と研究を相乗的に両立することが可能なのではないかと考えてこのコースを選びました。

現在、国立感染症研究所と提携して研究を進めておりますが、基礎的な研究を行う臨床医は、非常に珍しい存在です。なぜなら、収入や身分保証などの障壁にぶつかってしまう場合があるからです。しかし、臨床研究医コースでは、基礎研究に携わりながら収入や身分も保証されます。これも大きな魅力です。

臨床研鑽と研究の両立について

専攻医の資格とサブスペシャリティの資格取得を同時に目指していますので、研究だけに重きを置くのではなく、臨床研鑽も積めるよう努めています。学会発表などの時期が重なると、同時並行は体力的にも大変ですが、幸い自身の勤務する成育医療センターの先生方のご理解もあり、業務を調整しながら進めることができています。また、研究が深まる喜びと臨床を行う中での自身の成長を同時に感じられるので、とてもやりがいがあります。

研究医としての今後のビジョン

3年半後にコースを終える予定ですが、現時点では修了後の具体的なプランはありません。ただ、今後も臨床と研究の両方に携わっていきたいという思いは日に日に強くなっていますので、その方向で将来の道を模索していくつもりです。

また、いずれは海外留学もできたらと考えています。

これから研究医を目指す医学生・研修医へのメッセージ

臨床を行う中で少しでも研究に興味がある方には、臨床研究医コースを検討していただけたらと思っています。検討される方の中には、専門研修修了後に社会人大学院に入ったほうがいいのか、また、社会人大学院生と臨床研究医コースとの違いが分からず悩まれる方もいると想定しております。しかし、このコースの周知が進むにつれて環境は着実に改善されていると感じますので、今後、臨床と研究の両方に興味がある方々と共に臨床研究医コースを盛り上げ、臨床と研究の両面から日本の医療に貢献していけたら嬉しいです。

\ 責任医療機関 プログラム責任者からひとこと /



指導医

副統括責任者

利根川 尚也 先生

国立研究開発法人国立成育医療研究センター
教育研修センター 教育研修室長、人材育成管理部長(併任)

20代から30代の医師のキャリア形成に対する悩みとして「自分らしく社会貢献していきたい」という漠然としたキャリアのビジョンはあるものの、その先の具体的なプランについては知識や経験不足からなかなか決められないという現状が多いようにうかがえます。理想としてはキャリアの初期から身分保証された上で、臨床と研究を両立できればこんな素晴らしいことなく、そこが臨床研究医コースの最大の魅力だと思っています。ただし、将来について具体性を帯びていないため、キャリア支援においては個々に対応していく必要があることから、教育者として密な対話と長期的な関わり合いが必要であると感じております。その中で当センターでは、最初の2年間は臨床100%、後半は研究エフォート50%以上で、修了までかかる年数は個々次第という設計を前提とし、臨床研究医コースの専攻医4名とそれぞれのキャリアプランについて相談しながらカリキュラムを組み立てております。黒木先生の場合は、当初から感染症分野に進みたいというある程度具体的な希望があったため、関連する指導者の協力を得ながら、浜松医科大学からもバックアップしていただくことで、関連する施設全体で支えていく体制をとっております。



臨床と研究の両面から医学の面白さをもっと知りたい

倉元 史織 先生

所属先

九州大学眼科専門研修プログラム
(2022年度研修開始)

研究施設:2023年4月1日~2025年3月31日/九州大学病院

現在の研究:急性網膜壊死の眼内液免疫細胞プロファイリング



臨床研究医コースを選んだ理由

医師を目指したきっかけは、高校で生物を学んだ際に人体の成り立ちや仕組みに興味を持ち、この興味を仕事につなげたいと思ったことです。同時に、高校の生物の先生が「この人がこんな研究をした結果こんなことがわかった」という形で説明して下さることが多く、研究にも興味を持っていました。

臨床研究医コースを選んだ理由は、専門医取得と大学院進学という自身の希望する進路とコース内容が一致していたことと、一般の専攻医枠とは別枠での募集となるため希望の施設で専攻医と大学院生になれる可能性があると考えたためです。九州大学を希望したのは、出身大学の恩師の勧めもあり見学に行ったところ、とても良い環境であることを実感したからです。

臨床研鑽と研究の両立について

九州大学眼科は大学院生が研究に専念できる体制が整っており、臨床と研究の両立で苦労したことはこれまでありません。コースの1~2年目は、多くの指導医のもとで一般の専攻医と同様に臨床研修を受けました。現在、臨床は週1回自身の研究分野の専門外来を担当しているほかは、基本的には朝から研究し夜には帰宅します。研究サンプルを集めているため、夜に急患手術があった場合はサンプル処理で帰りが遅くなりますが、それ以外は自分のペースで研究を進めることができ、気になった症例をじっくり調べる時間もできました。研究を始めると、臨床の現場でも「同じ疾患でも患者背景によって重症化の仕方に差があるのはなぜだろう?」などといった見方をするようになり、臨床もより面白くなってきました。

研究医としての今後のビジョン

大学院修了後の具体的な方向はまだ模索中ですが、現在、大学院でご指導いただいている女性医師をロールモデルにしたいと思っています。大学病院の外来・病棟の診療に従事しながら、臨床の中で疑問を次々にみつけて研究課題とされており、臨床サンプルを集めて大学院生と一緒に研究されている姿は学ぶことが多いです。海外への研究留学も行きたいと考えています。

これから研究医を目指す医学生・研修医へのメッセージ

研究の世界を知ること、臨床もどんどん面白くなってきている実感があります。研究への入り口として、大学院への進学はお勧めです。「この施設で研究したい」という希望がある方には、臨床研究医コースは採用のチャンスを広げますのでご検討いただきたいと思います。



指導医

統括責任者

園田 康平 先生九州大学 大学院医学研究院
眼科学分野 教授

\ 責任医療機関 プログラム責任者からひとこと /

倉元先生は今の研究に合っているというか、生き生きと仕事をしており、このコースに入って良かったなと思っております。

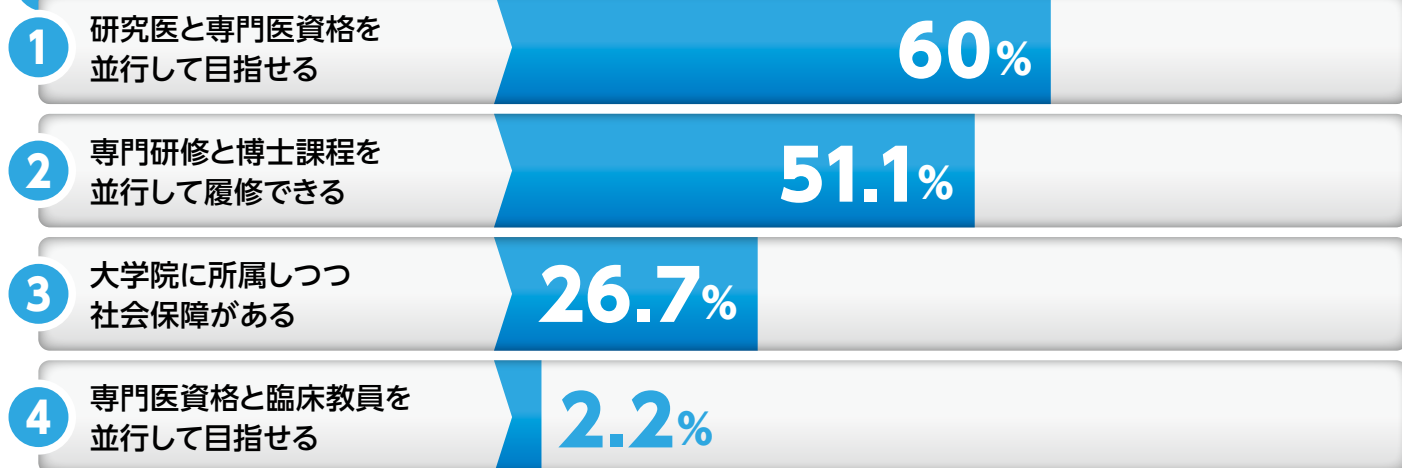
先生の場合は、身分保障があるため、その分アルバイトを減らして研究にあてる時間を確保できている点が一般の社会人大学院生との違いであり、他の社会人大学院生より研究への時間において有利だと思っております。

今後、専攻医の受け入れる体制において制度が充実されれば、コースの内容もより良いものになると思います。

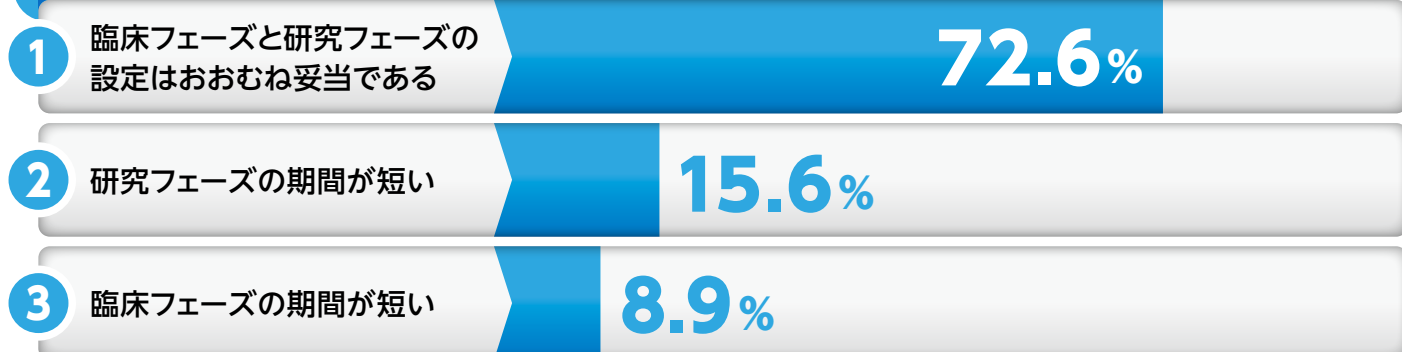
臨床研究医コース専攻医へのアンケート

臨床研究医コースでは、今後より良い制度になるよう、専攻医の皆様と臨床研究医コースの委員で、「専攻医意見交換会」を開催いたしました。下記は、意見交流をする上で集約した専攻医アンケートの結果となります。（調査機関：2024年12月 回答者：45名）

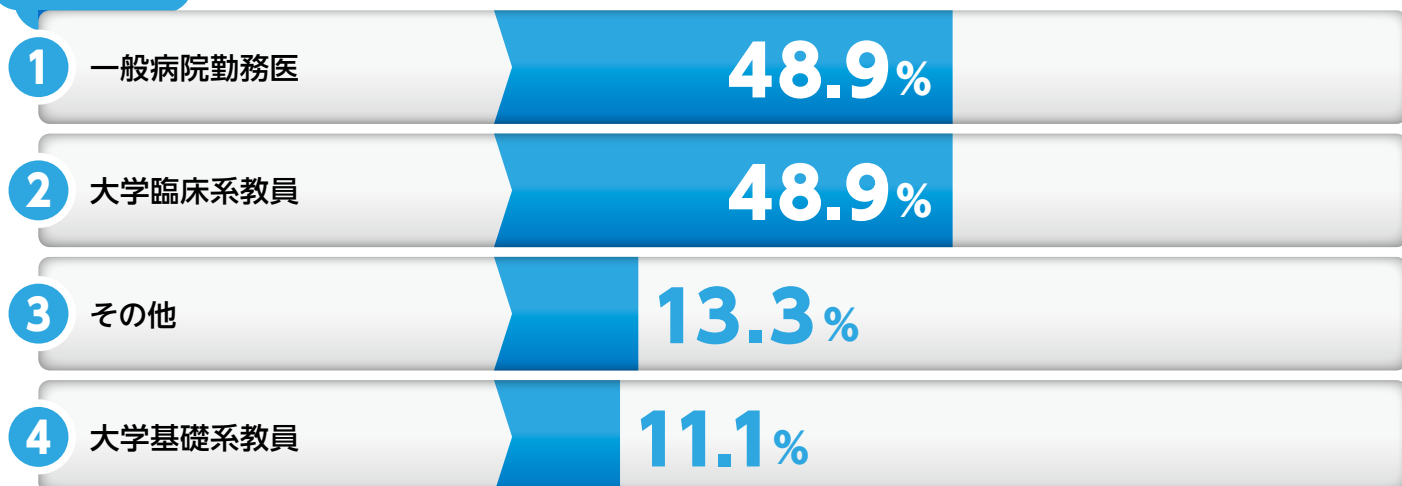
質問1・臨床研究医コースを志願した動機について



質問2・現在決定している各フェーズの期間について



質問3・将来（おおむね10年後）について



2026年度実施 日本専門医機構臨床研究医優秀賞

臨床研究医コースでは、優れた研究成果を出した方を顕彰することを目的として、2026年度から「日本専門医機構臨床研究医優秀賞」が実施されます。皆様からのご応募、お待ちしております！

実施概要

申請資格：臨床研究医コース修了見込み、または修了後1年以内の専攻医が申請することができる。複数回の応募を認める。

会 期：当該年度の3月～5月頃に当機構理事会で行うものとし、その半年前に詳細をホームページ上に発表する。

対象となるもの：

- ①学会誌で発表した研究。
- ②S.C.I (Science Citation Index) のついた英文雑誌において掲載された研究。
申請時においてin pressか、既発表の論文を対象とする。
- ③臨床研究医コースにおいて、優れた研修成果、実績を出した専攻医。

選考方法：日本専門医機構 臨床研究医コースWGが評価し、理事会において3名までの研究医優秀賞を決定する。

応募要綱：※共通事項
応募に際しては、研究業績書、「日本語抄録」(800字以内)および論文または校正刷り (proof) を、開催年の2月までに機構事務局に提出すること。

授 与：臨床研究医優秀賞：3名まで(表彰状・盾ならびに副賞10万)

公 表：日本専門医機構のホームページにて受賞論文および著者氏名を公表する。

発 表：当機構理事会で開催する授賞式で発表。受賞者は口演で、5分程度の研究発表を行うものとする。



以下のURL・二次元コードより専門研修の流れ、応募詳細など、最新の情報をホームページでご確認いただけます。

詳しくは
こちら



一般社団法人
日本専門医機構

URL

<https://jmsb.or.jp/>



Japanese Medical Specialty Board